

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
京都府教育委員会

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
京都府	特別支援学校	聴覚障害	きょうとふりつろうがっこう 京都府立聾学校
京都府	特別支援学校	知的障害・肢体不自由	きょうとふりつむこう おかしえんがっこう 京都府立向日が丘支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

【府立聾学校】

実施時期	実施内容	評価事項
令和元年 7 月 11 日	校内授業研 (高等部) 指導助言及び講演	・ 高等部「英語」研究授業における事後研究会での指導助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。演題「思考力・判断力・表現力等を育むための「言語活動の充実」①
令和元年 9 月 3 日	校内授業研 (中学部) 指導助言及び講演	・ 中学部「国語」研究授業における事後研究会での指導助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。演題「思考力・判断力・表現力等を育むための「言語活動の充実」②
令和元年 9 月 20 日 10 月 31 日 11 月 15 日	分校部内研修会	・ 研究授業における事後研究会での指導・助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演 演題「わかる・できるにつながる支援」について考える (3回シリーズ)

令和元年 10 月 2 日	小学部学部内研修会	・新学習指導要領への移行作業への助言・指導
令和元年 10 月 17 日 ～10 月 18 日	全日本聾教育研究大会（高岡）	・全国聾学校の事例・課題の交流・研究
令和元年 11 月 20 日	近畿中・高・大英語教育連絡協議会	・新学習指導要領への移行に伴って英語教育の指導について考える
令和元年 11 月 22 日	広島県立広島南特別支援学校 公開授業研究会	・早期・幼稚部教育・小学部及び高等部進路指導等について先進校視察
令和元年 11 月 26 日	奈良県立ろう学校公開授業研究会	・他校の意欲的な授業づくりから学ぶ
令和元年 11 月 27 日	校内授業研（小学部） 指導助言及び講演	・小学部「算数」研究授業における事後研究会での指導助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。演題「基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために」
令和 2 年 1 月 31 日 令和 2 年 2 月 4 日	大阪府立堺聴覚支援学校 校内授業研（幼稚部） 指導助言及び講演	・他校の実践から学ぶ ・幼稚部 4 歳児クラス公開授業研で指導助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。演題「聴覚障害教育の専門性を踏まえた授業改善づくり・授業改善」 これまでの実践研究の取組、その成果と課題について研究冊子にまとめ府立特別支援学校、全国の聾学校に配付し、報告する
令和 2 年 2 月 12 日	小学部学部内研修会	・新学習指導要領への移行作業への助言・指導
令和 2 年 2 月 13 日 ～2 月 14 日	筑波大学附属聴覚支援学校公開研究会	・幼児教育部門の研究発表会から学ぶ

【府立向日が丘支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 31 年 4 月 17 日	第 1 回全校研究会 ・研究計画の確認 ・研修「新学習指導要領改訂のポイント」	・指導主事による指定校の研究内容・研究計画についての評価

平成 31 年 4 月～ 令和元年 7 月 (研究協力者は 6 月 25 日、7 月 2 日、4 日に来校)	1 学期研究授業月間	・ 研究協力者による授業評価 と、授業改善の観点につ いての助言
令和元年 5 月 22 日、 29 日、6 月 12 日、26 日、7 月 10 日	学部研究会 (授業改善研究)	・ 研究協力者から示された授 業改善の観点に基づいた授 業改善研究の実施
令和元年 7 月 5 日	第 1 回学校評議員会議	・ 学校評議員による研究評価
令和元年 7 月 22 日	第 2 回全校研究会 ・ 1 学期授業改善研究まとめ ・ 研修「誰もが社会貢献できる可能性」 ・ 研修「新学習指導要領の実施に向けた、子ども達の可能性につながる ICT の活用」	・ 研究協力者による 1 学期に 実施した授業改善研究の取 組についての評価 ・ 指導主事による指定校の研 究内容についての評価と指 導・助言
令和元年 9 月～ 12 月 (研究協力者は 9 月 10 日、24 日、10 月 2 日、24 日、11 月 20 日、27 日、12 月 4 日、11 日に来校)	2 学期研究授業月間	・ 研究協力者による授業評価 と、授業改善の観点につ いての助言
令和元年 9 月 8 日、 10 月 23 日、11 月 26 日、12 月 11 日、23 日 (研究協力者は 12 月 11 日、23 日に 来校)	学部研究会 (授業改善研究)	・ 研究協力者による授業評価 と、授業改善の観点につ いての助言
令和元年 10 月 30 日	第 3 回全校研究会 ・ 1 学期授業改善研究・教育課程改善研究の進 捗状況について	・ 研究協力者による 2 学期に 実施した授業改善研究の取 組についての評価と、カリ キュラム・マネジメントに ついての助言
令和元年 11 月 7 日	文部科学省指定研究 研究報告会の実施 (社会に開かれた行事「学校祭」との合同開催)	・ 外部評価 (教育関係者、地 域住民、保護者等)
令和元年 11 月 7 日	第 2 回学校評議員会議	・ 学校評議員による研究評価
令和元年 12 月 23 日	第 4 回全校研究会 ・ 研修「できないことは補ってあげばいい、こ	・ 講師による授業改善研究の 取組についての評価と、カ

	れが共生社会」～誰もが社会貢献できる可能性 ～	リキュラム・マネジメント についての助言
令和2年1月23日、 2月5日、20日、3 月10日 (研究協力者は 1月23日、2月5日 に来校)	学部研究会 (授業改善研究)	・研究協力者による授業評価 と、授業改善の観点につい ての助言
令和2年2月21日	第3回学校評議員会議	・学校評議員による研究評価
令和2年3月23日	第5回全校研究会 ・本研究における授業改善研究・教育課程改善 研究まとめ ・次年度以降の研究について	・研究協力者、指導主事によ る年間の授業改善研究とカ リキュラム・マネジメント の取組についての評価

(2) 研究課題

新学習指導要領の実施に向け、「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」を軸に地域社会と協働し、社会に貢献する授業づくりと日々の授業改善の実践研究に取り組む。

(3) 研究の概要

【府立聾学校】

全教職員が「魅力ある」学校づくりをスローガンに、聴覚障害教育にとってよくわかる授業づくり・授業改善の方向性や進め方、子どもたちの主体的な学びを支える指導方法や指導上の配慮等についての研究を進めてきた。授業改善の中心である公開授業は、各学部が公開授業週間を設け、全教員の公開授業及び授業参観に学部を超えて取り組んだ。事後研究会には、研究協力者として東北福祉大学の西大教授、同志社大学の中瀬准教授を招き、授業改善に直結する研究授業への講評と授業改善に取り組むために必要な知識・情報・考え方などについて講話をいただくなど、これまでの研究成果や教訓を全教職員に浸透させることをめざして全校的に研究を進めた。

【府立向日が丘支援学校】

障害のある児童生徒の社会貢献を実現し、地域社会と協働した教育活動を進めるために、地域における人的・物的な資源と授業をつなぎ、教育の目的とするところを共有することから、障害のある人を含む多様な人々の社会貢献の在り方を検討し、教育効果が見込める学習活動を展開した。そのために、授業改善シートや教科・領域等関連表を作成・活用し、児童生徒の能力や可能性を最大限発揮するための指導の在り方、指導のねらいと評価等に関する実践研究に取り組んだ。さらに学部間や社会への移行を想定した学びの連続性を教育課程において可視化することに取り組んだ。また特別支援学校と地域社会との連携協働を実現する学校経営の在り方について研究を進めた。

(4) 研究の成果

【府立聾学校】

今年度は学部単位で取り組むことでこれまでの研究の成果を基に、各学部の課題に合わせた授業改善・研究が進み効果的な研究会を実施することができた。特に授業研究会の持ち方や授業改善の方法を一定確立することができた。あわせて研究協力者による指導・助言では、各学部のテーマに沿って授業改善に直結する研究授業への講評や授業改善のために必要な知識や考え方などについて学ぶことができ、その後の研究会のテーマ設定や研究協議の深まりにつながった。また他府県の聾学校視察や小、中、高等学校の授業参観の機会を積極的に作ることで、実践を振り返り、課題を見つける機会にもなった。府内の聾学校は本校のみであり、他校の実践研究から幅広く学べる貴重な機会となり、よくわかる授業づくり、授業改善につながる取組を進めることができた。

【府立向日が丘支援学校】

障害のある児童生徒の社会貢献を実現する、地域社会と協働した教育活動の在り方について検討し、協働した活動をする際は、授業の目標を地域の方と丁寧に共有し、役割を意識しながら一緒に活動することで、地域社会の方が授業の目標達成の一躍を担うこととなったり、共生社会の実現について考えたりする重要な機会となることを明らかにした。また社会貢献を実現するための指導の在り方については、できたことが児童生徒自身の喜びとなり授業以外の場面でもその力を発揮できたという達成感を育む設定があり、誰かの役に立っていると感じられる経験が繰り返し設定されていることが重要である。地域社会との連携協働を実現する学校経営の在り方については保護者や地域社会に学校の教育目標を示し、教育課程をわかりやすく説明し、評価を受け続け、改善するPDCAサイクルを実施することが必要であることを明らかにした。

(5) 課題と今後の方策

【府立聾学校】

本研究事業で明らかになった授業改善の進め方や授業研究の取り組み方を踏まえ、日々の授業づくりと結びつけたPDCAサイクルによる授業改善を具体的に進めていく。中でも評価のできる具体的な方策としては引き続きの研究が必要でありすべての教員の授業力の底上げとなる取組を継続していく。また聴覚障害児の言語力向上のためには、新学習指導要領を踏まえた「各教科等の指導内容」を具体化する効果的な指導方法の研究は不可欠である。同様に自立活動の指導についても作業部会で作成した年間計画を使って実践しながら、授業改善研究を進める。「キャリア教育」の充実も含めた3つの視点によるPDCAサイクルにより授業改善を進めることで学校全体で指導の充実に取り組み、魅力ある聾学校づくりを進めていきたい。

【府立向日が丘支援学校】

今後も授業改善研究、教育課程研究に取り組むことで、児童生徒一人一人に共生社会を構成する社会の一員として豊かな人生を送っていくための力を育み、共生社会が理念だけではなく実感をともなったものとして実現していくよう、以下の3点の取組を継続する。

- ① 新学習指導要領を更に推進・具現化し、児童生徒の可能性を追求し共生社会の形成に貢献する学校
- ② 明るく活気があり業務改善が進み、ライフステージに応じた多様な働き方を認め合い澁刺颯爽と働く教職員

③ 各取組の総力としての教育効果が高まっている学校を目指す。本取組は「業務改善」と「質の高い授業」を両立させることを目指し、学校経営のなかに授業改善研究を位置付け進めていく。